

平成 31 年度 東アジア人文研究討論会派遣参加報告書

京都大学文学研究科博士後期課程 3 年 JI CHENJIA

① 学習成果

今回のプログラムでは、京都大学の学生たちと一緒に上海市へ渡り、復旦大学と香港城市大学の若手研究者たちと一緒に、東アジア人文科学諸分野の課題に関する各自の研究内容を報告しました。参加者は今回のプログラムで、最近の研究成果を発表して、参加者の研究者たちのあいだに熱い議論を行いました。また、各地の研究者の研究報告を聞き、人文社会科学の諸分野の進展を勉強しました。

② 海外での経験

この度京都大学の一員として、出身地の上海へ戻り、母校である復旦大学で発表することができ、非常に新鮮な経験を獲得しました。自分にとって「生活世界」ともいえる親しい世界はある種の他者の目線から再発見することができました。また、他の参加者に上海や復旦のことを紹介する機会も得られました。また、本プロジェクトに参加することは二回目であり、前回の参加者との再会もできました。

③ プログラム内容

ワークショップが終わってから、杭州での二日間の見学を参加しました。杭州は今まで 2、3 回ほど行ったことがあるが、今回見学した良渚遺跡や龍井村などはまだ行ったことがありません。5000 年以上の歴史を持つ良渚は中国地域で最初の人類文明の遺跡と思われた。良渚文化の社会構造は中国ないしアジア社会の由来と現在の在り方を理解するためにも、大きな意味を持つと思われます。良渚博物館を参観することを通して、自分の研究課題である東アジア社会の在り方・考え方へもたくさん有意義な発想が得られました。

④ 進路への影響について

東アジアの社会学史・理論の研究を行っている私にとって、今度の経験は自分の問題関心と深くつながっている。社会学だけでなく、文学・歴史研究各分野の最近の進展を発表から知りつつ、トランスディシプリンな研究の可能性に関する認識を進めました。また、アジア社会の独自の社会科学を進めるために、これらの分野の知見と研究進展を活かす必要性を痛感しました。この体験を生かして、これからの研究活動で自分の問題意識と視野を広げる意欲はわいてくると感じています。

<事務局使用欄> 受付番号：

-